

利用による漁法、鮭はわ釣漁法、底延縄漁業等実施したが兩地区共相當の成果をあげていたので、今後も時期を見て実施する計画である。

以上実施した状況について説明したが各科目について詳細に記述すると次の通りである。

2. 琉球近海鮭漁場の調査及漁業試験

A. 目的

沖縄近海へ時期的に來遊する鮭、かじき及び鱈類の漁況及び餌料さんまに依る増付状況並に同魚類の回遊経路を調査せんとするものである。

B. 期間

自10月23日 至10月26日 4日間

C. 漁具

構成は従来通り、數量20鉢

D. 調査設備

- (イ) 使用船 信船宮島丸^{30ton}
- (ロ) 従業員 宮島丸船長外7名、調査員3名
- (ハ) 海洋観測器具

E. 経過

今回の調査は馬場港後連日の悪天候のため充分な調査が出来ず、別箇のとおり久米島沖合で1回、喜屋武岬沖合では1回の操業で打切つたため、充分な調査が出来なかつた。試験回数が少なく明確な結果を得る事が出来ず誠に遺憾に堪えない。今後調査の必要がある。

F. 海況及漁況

- (イ) 久米島沖合 — 当漁場は久米島の西方約17海里洋上で潮流はSE/Eに約0.5節の速さで流れ、透明度23米、水温は26.5度を示して居た。投餌時より操業時迄10時間其の間にキハダ鮭二尾、青鱈一尾の漁獲があつたが、何れも水深40米内外で釣獲された。
- (ロ) 喜屋武岬沖合 — 当漁場は喜屋武岬南方沖合で14海里の地点で潮流はE/S約1.6節の速力で流れ、透明度23米、水温は25.6度乃至25.8度で、前記漁場より0.7~0.9の下降が見られ海上は益々風波が高まり、充分なる調査が出来ず操業時6時間で調査を打切つた。漁獲は何等見るべきものがなかつた。

G. 氣象海況(別表参照)

航跡(延150哩、漁場は別表参照)

漁獲高表

期 間	漁 種	数 量	全 額	備 考
10月23日 10月26日	キハメ類	79斤	4,254円	販売社神龍漁運
▼	青 鱈	36斤	1,422円	
計		114斤	5,676円	

試験操業表

月 日	位 置	投網時	揚網時	所用時	水温	潮 流	透明度	漁 獲	備 考
10.24	N26°-14'-30" E126°-26"	A.M 7h-10m	P.M 5h-10m	10時	25.9	SE/E	0.5部	キハメ類 2部 青 鱈 1尾	
10.26	N28°-02" E127°-49"	A.M 6h-50m	P.M 12h-50m	6時	25.5 25.8	I/N	1.6部	なし	午後より操業不能となる

1955年10月23日同10月26日近海創漁場調査

年 月 日	時 刻	気 象					潮				況		
		天候	雲量	風 向	風 力	気 温	気 圧	波 高	うねり	透明度	水 温	比重	水色
10月23日	15	BC	4	NNE	4	26.4	762.9	4	2		25.4		3
▼	22	BC	3	NNE	4	24.6	763.5	3	2		25.6		
10月24日	8	BC	7	NNE	4	24.8	763.8	4	2	23m	25.0		2
▼	12	BC	8	NNE	4	26.7	762.5	4	2	24m	26.5		2
▼	16	C	8	NNE	8	25.5	762.3	5	3	23m	26.5		2
10月25日	8	BC	3	NNE	5	25.5	762.3	4	3		25.7		2
▼	12	BC	4	NE	4	25.2	761.2	4	2		25.2		3
▼	16	BC	3	NE	4	26.0	759.8	3	3		25.8		2
10月26日	8	BC	5	NE	4	25.7	761.2	4	3	28m	25.6		1
▼	12	BC	4	NE	6	25.8	761.2	5	4	28m	25.8		1
▼	16	BC	3	NE	6	25.8	760.8	4	3		25.3		1

近海鮪漁場調查圖

- 投錨位置
- 任務線
- 復原線
- 標記

